

平成 30 年（2018 年）の雄阿寒岳の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2018年の発表履歴

2018 年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
-------------	-------------------

○2018年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1～4）

7 月 17 日から 18 日に現地調査を実施しました。北西斜面では、前回（1991 年 7 月）と同様に、複数の噴気孔から弱い噴気を確認しました。噴気温度は 66℃で、前回と比較して特段の変化はありませんでした。山麓からの赤外熱映像装置¹⁾による観測では、これまでと比較して地熱域の状況に変化はみられませんでした。

7 月 30 日及び 11 月 27 日に上空からの観測（国土交通省北海道開発局及び第一管区海上保安本部の協力による）を実施しました。赤外熱映像装置では、北西斜面の地熱域の状況に変化はみられませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 1 雄阿寒岳 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）

赤矢印は地上からの撮影、青矢印は上空からの撮影を示します。
赤丸はこれまで確認されている地熱域を示します。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>) や気象庁のホームページ (https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平 29 情復、第 958 号）。

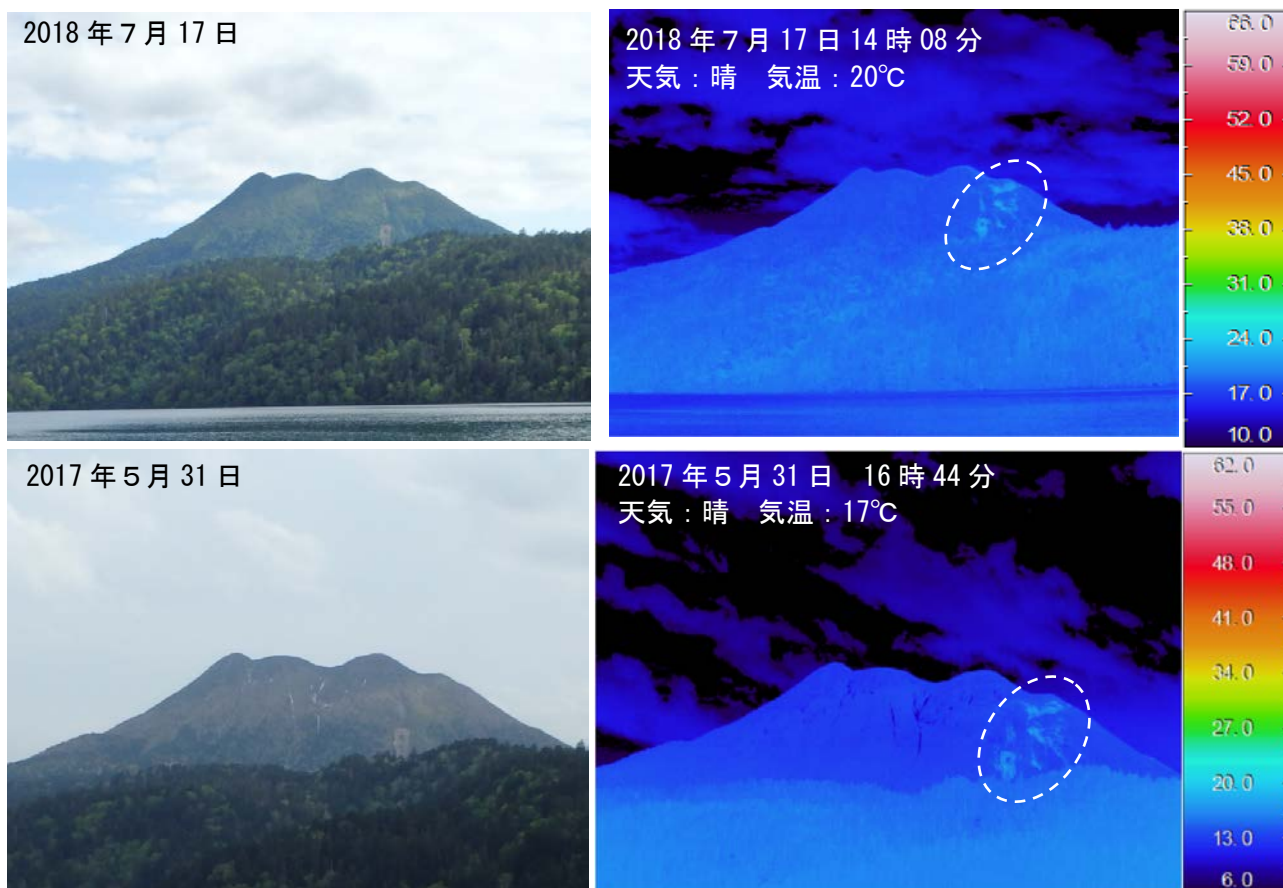


図2 雄阿寒岳 赤外熱映像装置による北西斜面の地表面温度分布
北側（図1の①）から撮影
・地熱域の状況（破線部）に変化は認められませんでした。

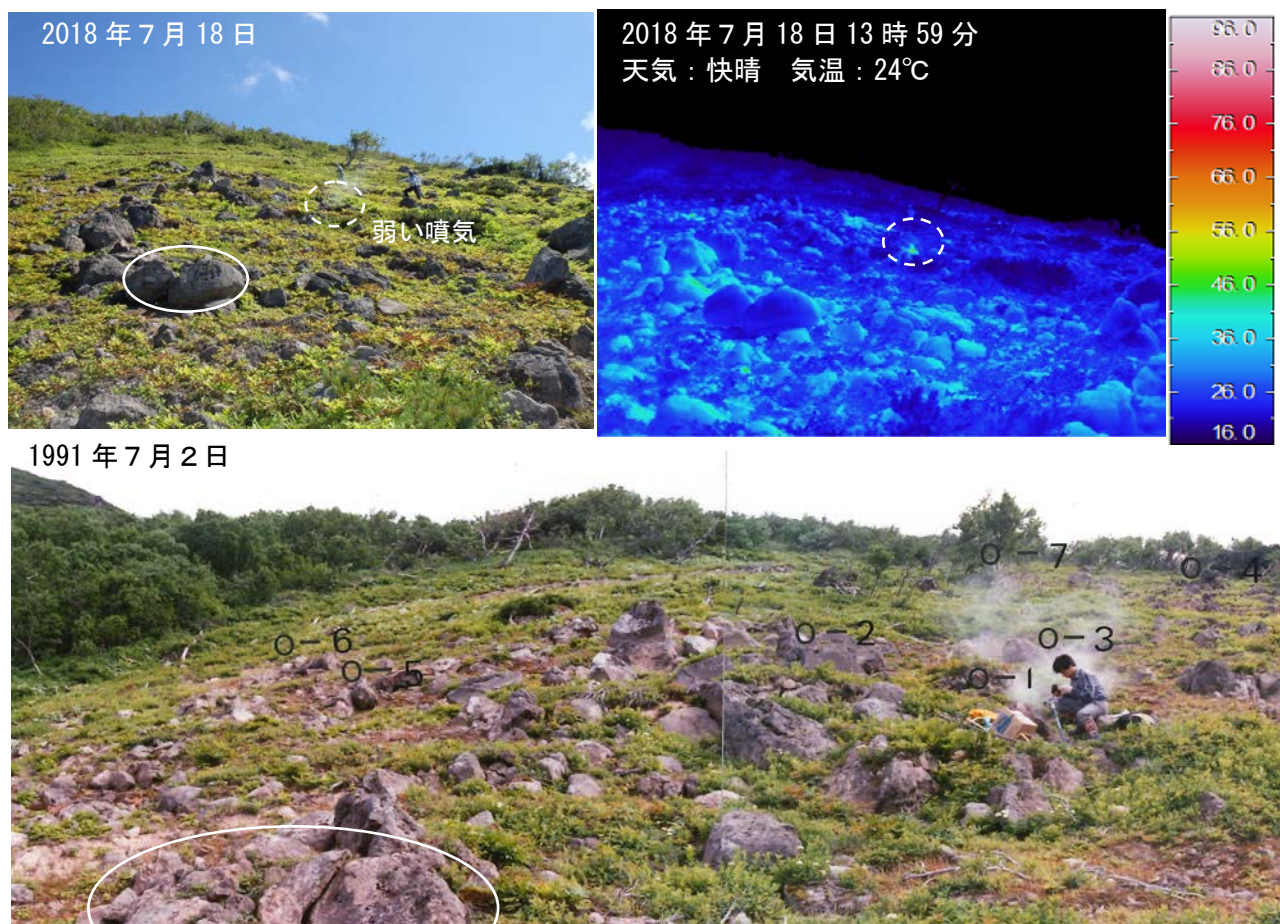


図3 雄阿寒岳 北西斜面噴気孔群の状況及び地表面温度分布

北側（図1の②）から撮影

白破線、白線はそれぞれ、同じ位置を示しています。

- ・複数の噴気孔から弱い噴気を引き続き確認しました。
- ・日射の影響は大きいものの、噴気に対応した地熱域が認められました（白破線内）。
- ・噴気温度は66°Cで、前回と比較して特段の変化はありませんでした。

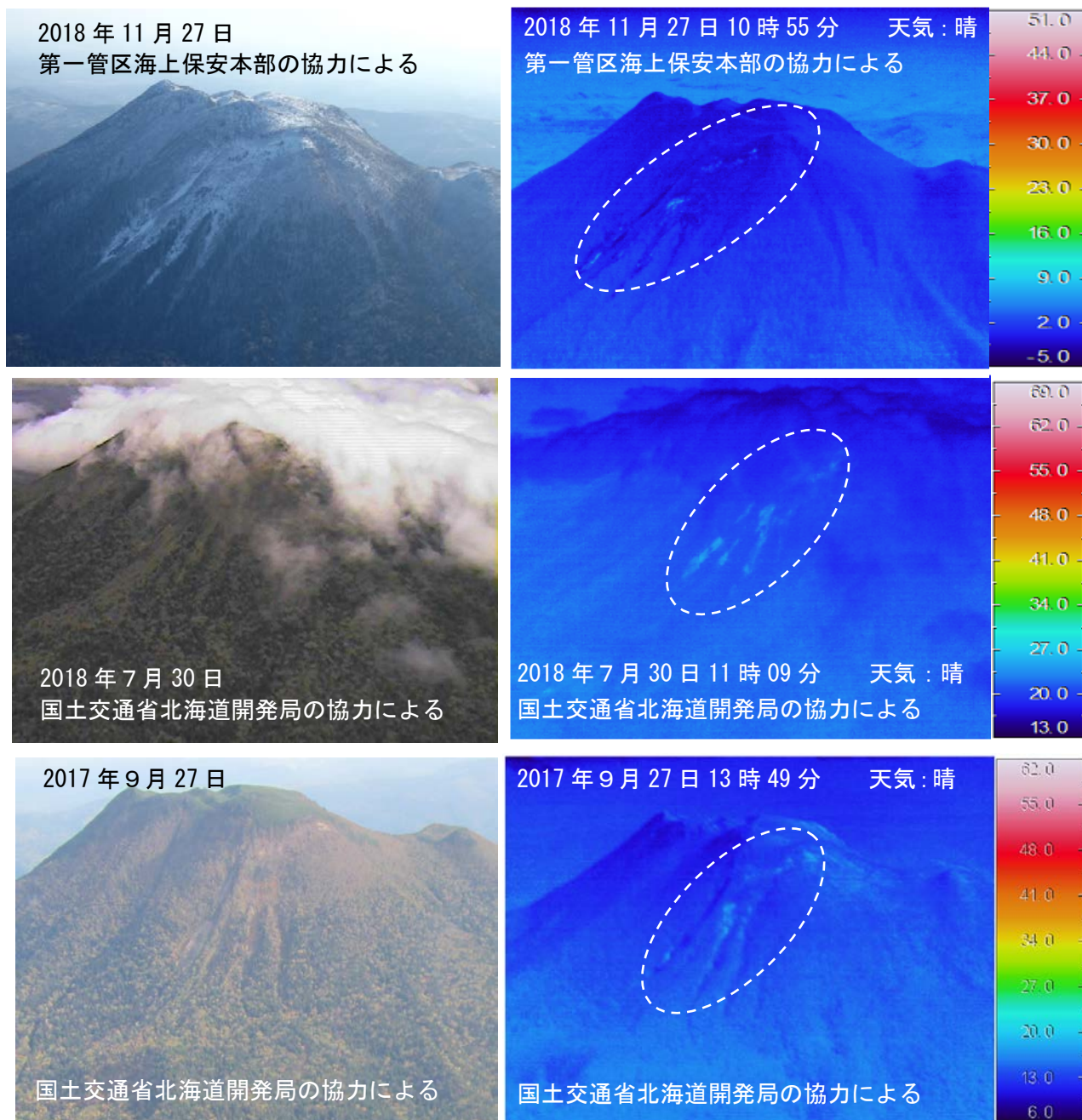


図 4 雄阿寒岳 赤外熱映像装置による北西斜面の地表面温度分布
北西側上空（図 1 の③）から撮影
・地熱域の状況（破線部）に変化は認められませんでした。